

女性患者にかつら無料貸与

札幌の団体

札幌市内のがん患者の支援団体が連携し、抗がん剤の副作用で髪の毛が抜けた女性患者向けに、かつらを無料で貸し出す活動を始めた。かつらは高額なため「患者は髪を失ったショック、経済的な負担という二重の苦しみを味わう」として、負担軽減を目指す。こうした取り組みは道内では初めてという。

北海道がんセンター（札幌市白石区）の患者の交流スペースで、患者の相談などに応じている16団体が連携。任意団体「ひだまりウイック」を3月上旬に設立した。同センター内で月2回、貸し出し用かつらを展示、試着や貸し出しに応じている。事業には、札幌市内

H25.5.26 道新



気持ちと財布負担軽く

ひだまりウイックレンタルサロンのメンバーや手入れする貸し出し用のかつら

もりがち」などと悩む患者は少なくない。さらに、「かつらは一般的なもので5万～20万円する」とい、経済的な負担も大きい。

同様の事業は福岡市のNPO法人が2010年から行っていて、これまでに300人以上が利用、好評だとう。

乳がん患者団体あけぼの会道支部の大沼美津子さん（65）は「かつらとともに、闘病へのエールも届けたい」と話している。

貸し出しは無料だ

約400カ所の美容室で構成する札幌美容協同組合（岩川祥哉理事長）が協力。貸し出し手入れ用品を提供する60代の患者4人に貸し出した。患者は複数のため登録管理料が5千円かかる。同サロンは、かつらの提供も呼び掛けている。問い合わせをする。かつらは治療を終えた元患者や同組合の会員の顧客らに同サロンによると、脱毛により「人目が気になり、自宅に閉じこへ。これまでにかつら約6060（平日のみ）